


ジェネリック医薬品に係る現状分析について

令和6年8月

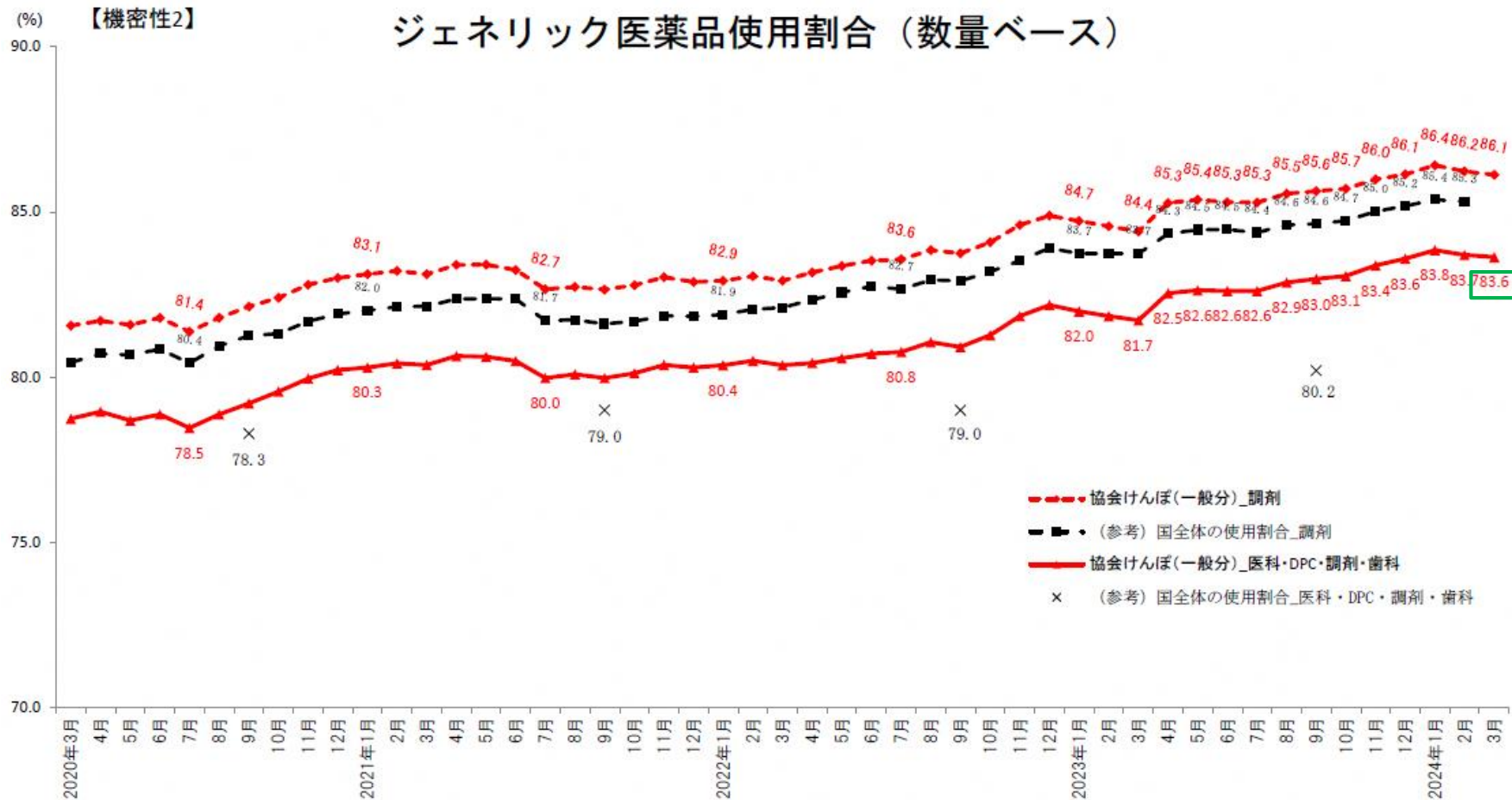
目次

- | | |
|------------------------------|------|
| 1. 協会けんぽにおけるジェネリック医薬品使用割合の現状 | P.2 |
| 2. 協会けんぽにおけるバイオシミラーの現状 | P.10 |

1. 協会けんぽにおけるジェネリック医薬品 使用割合の現状



令和6年3月時点での、協会けんぽのジェネリック医薬品使用割合は83.6%。
使用割合については伸び率が鈍化傾向にある。



注1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レプトについて集計したものである。（ただし、電子レプトに限る。）

なお、DPCレプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。

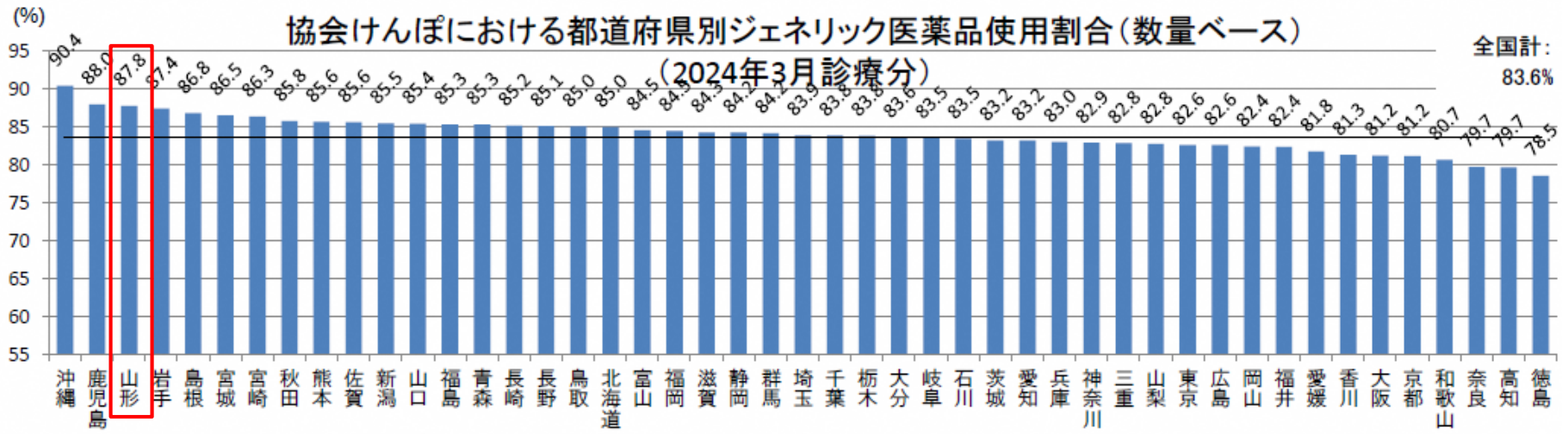
注2. 「数量」は、薬価基準告示上の企画単位ごとに数えたものをいう。

注3. [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

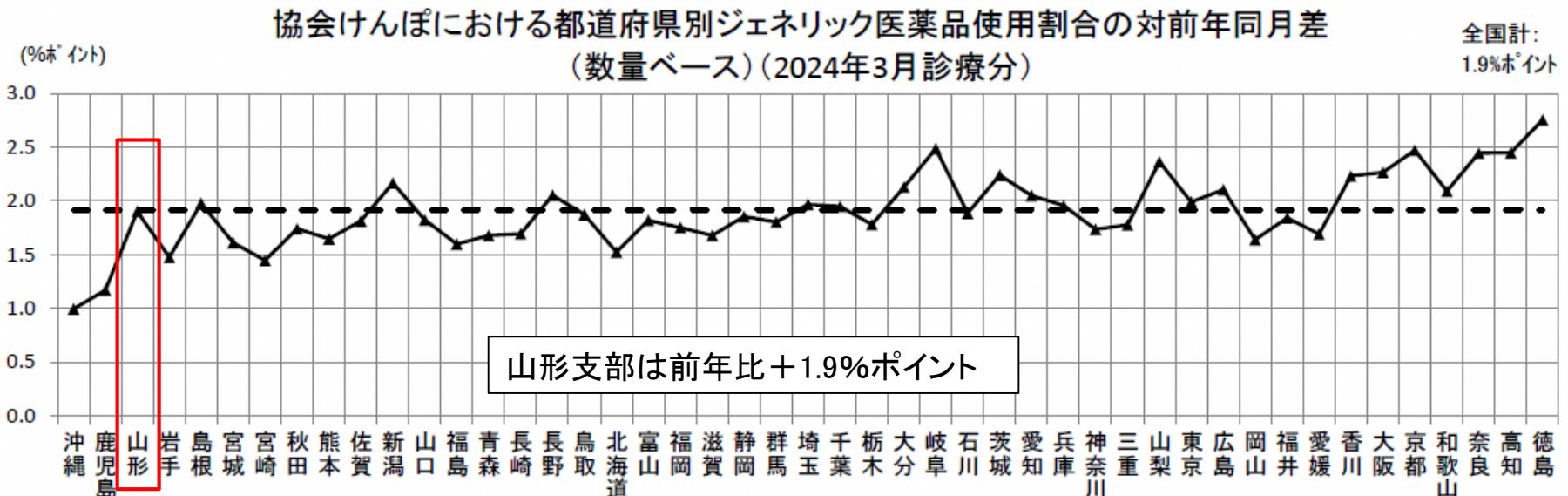
注4. 「国全体の使用割合_調剤」は「調剤医療費（電算処理分）の動向」（厚生労働省）、「国全体の使用割合_医科・DPC・調剤・歯科」は「医薬品価格調査」（厚生労働省）による。

注5. 後発医薬品の収載月には、後発医薬品が初めて収載される先発医薬品があると算出式の分母の対象となる先発医薬品が増えることにより、後発医薬品割合が低くなることもある。

令和6年3月時点で、山形県は87.8%で全国3位。東北地方では最も高い。

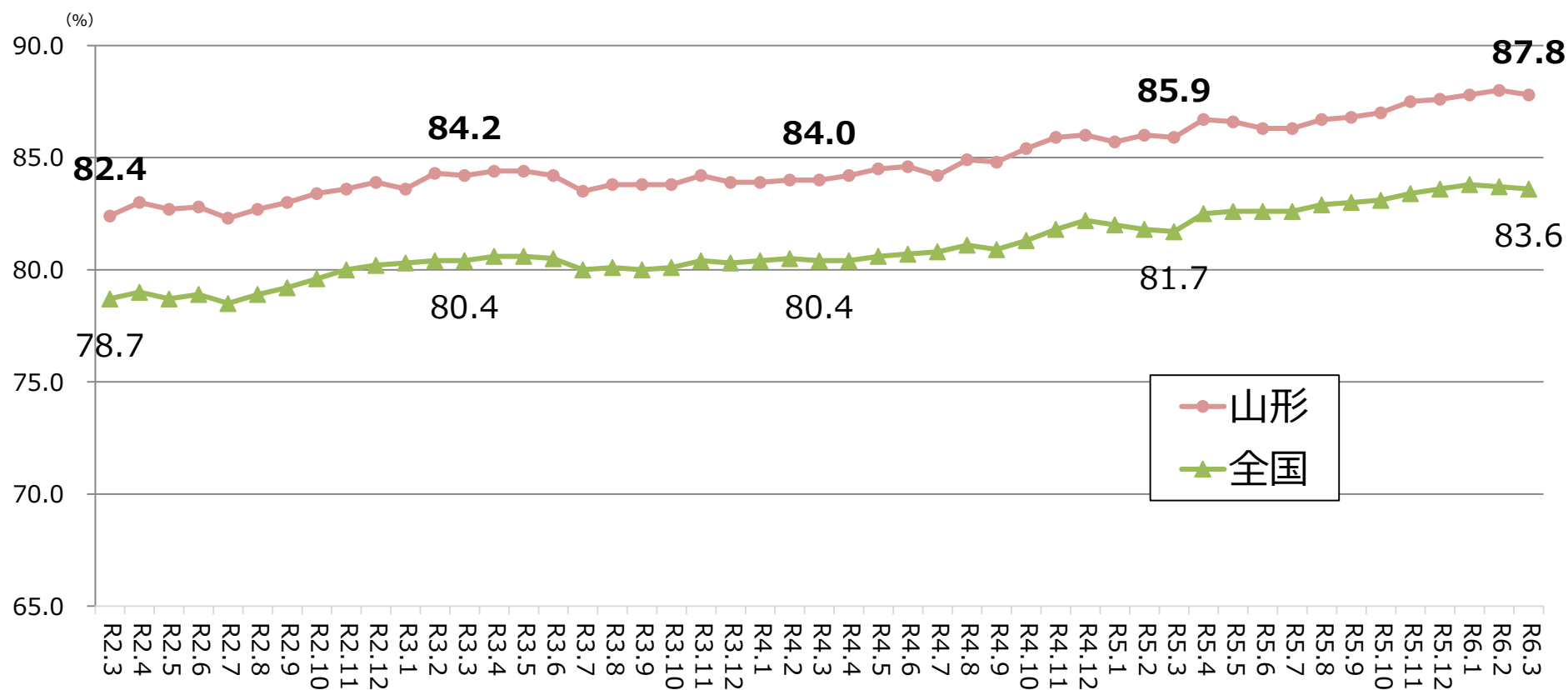


注1. 協会けんぽ（一般分）の内科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）
 なお、DPCRレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。
 注2. 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
 注3. 都道府県は、加入者が適用されている事業所所在地別に集計したものである。
 注4. $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。



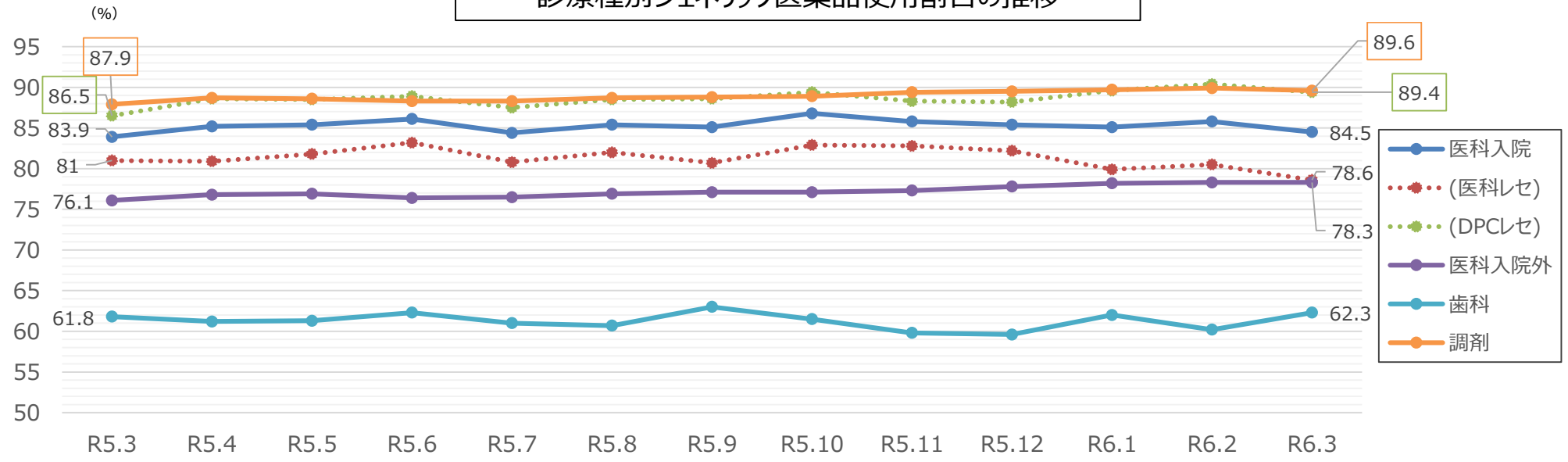
・ジェネリック医薬品全体で見ると、数量シェアは品質問題が顕在化以降も増加傾向。

ジェネリック医薬品使用割合の推移

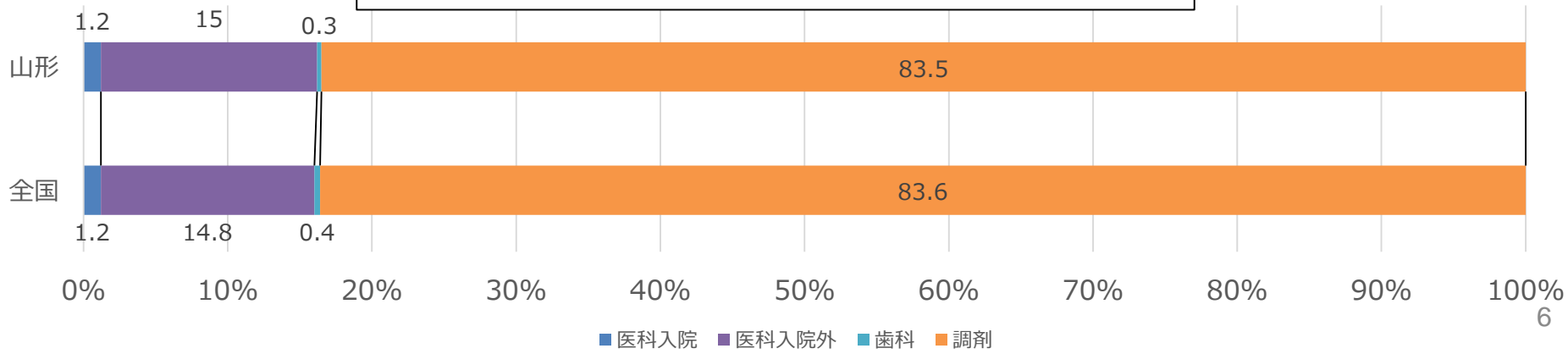


・全体数量の多い「調剤」において1.7%の伸びが見られる。

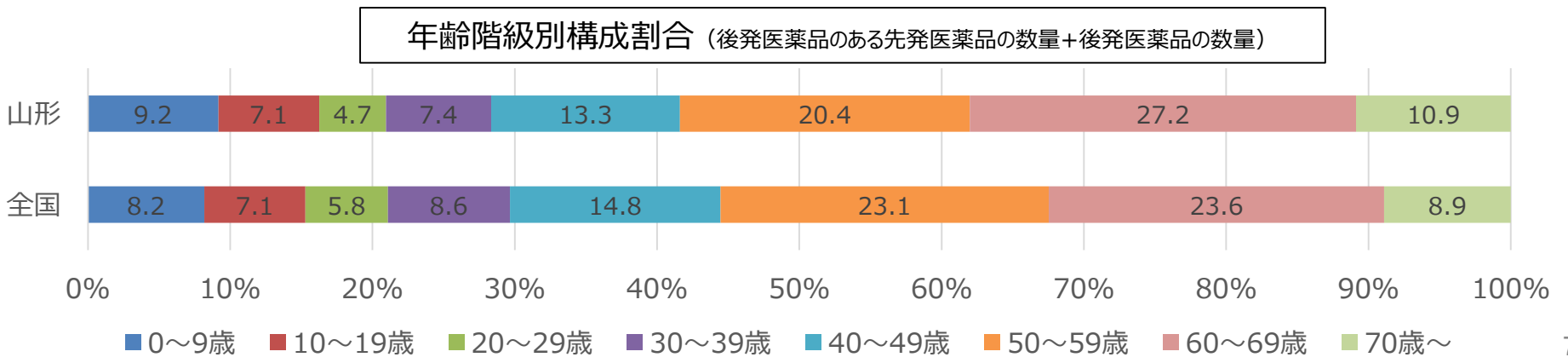
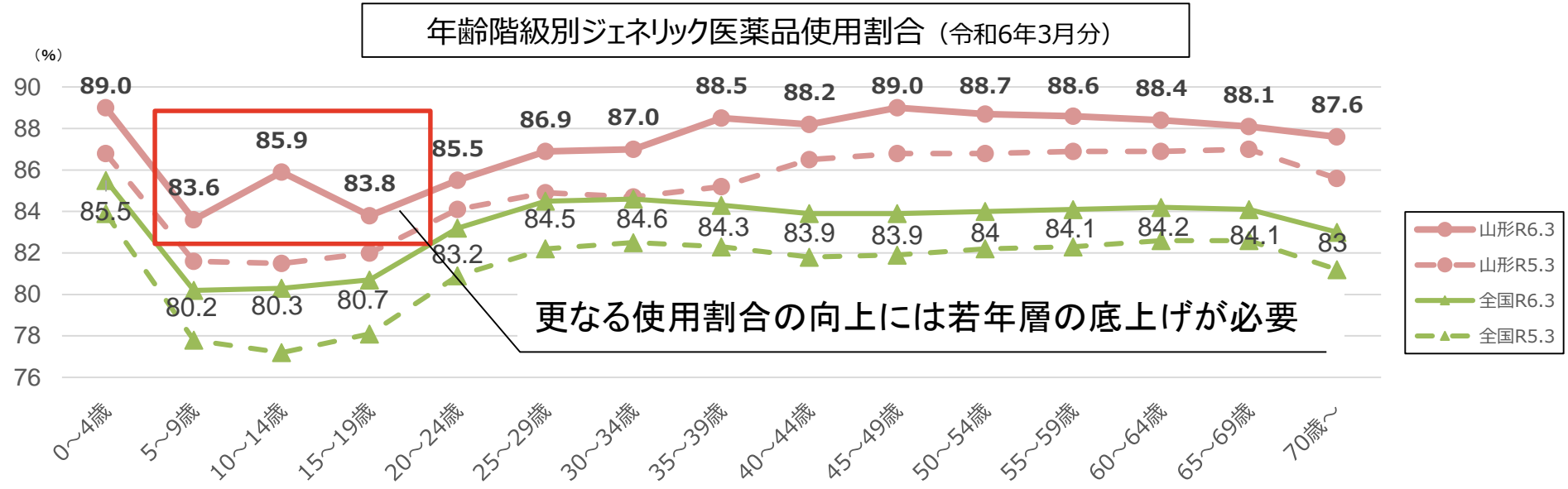
診療種別ジェネリック医薬品使用割合の推移



診療種別構成割合 (後発医薬品のある先発医薬品の数量+後発医薬品の数量)

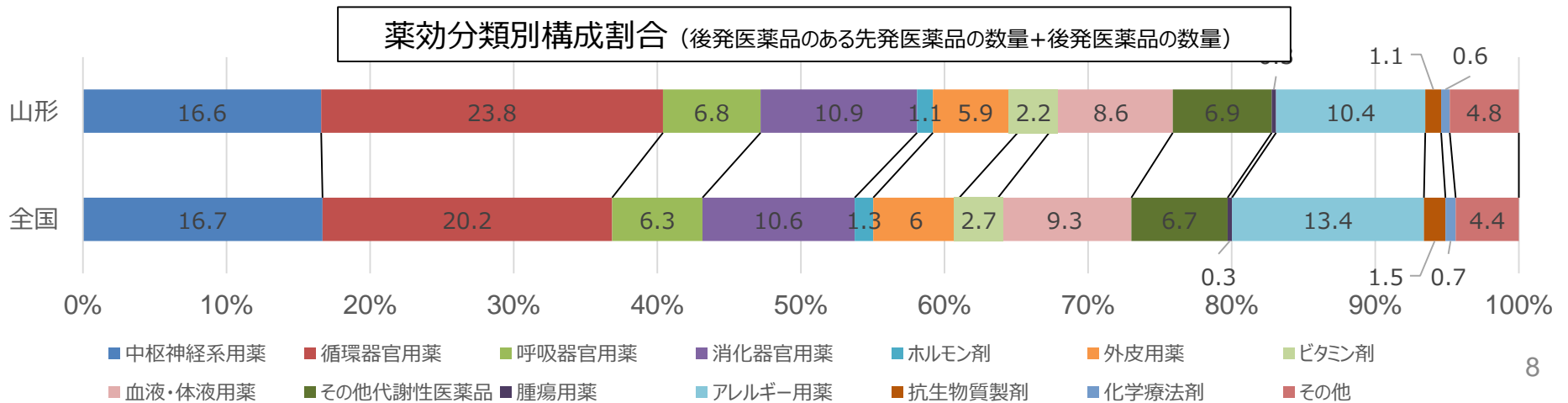
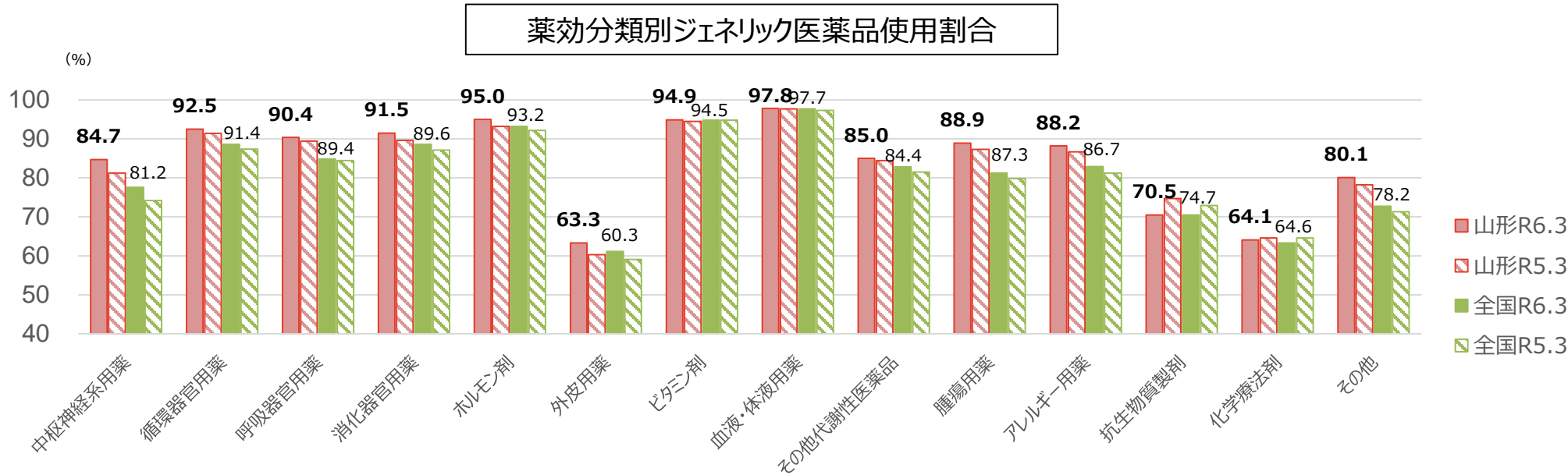


・山形支部のジェネリック医薬品使用割合は、各年齢層とも全国平均を上回っている。

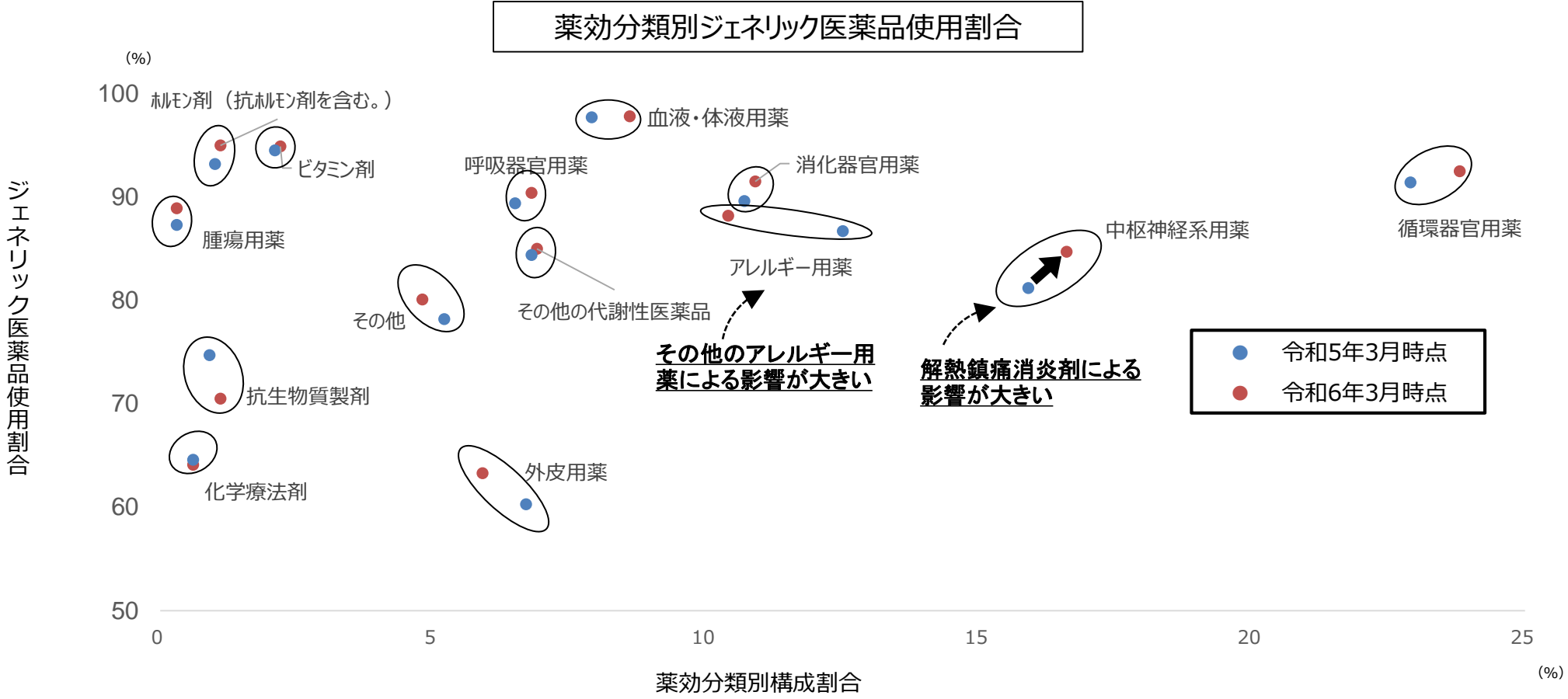


※端数処理の関係上、合計が一致しない場合がある。

・山形支部のジェネリック医薬品使用割合は、全ての薬効分類において全国平均を上回っている。



・数量シェアが小さい医薬品（抗生物質製剤、化学療法剤）を除き、ほとんどの薬効でジェネリック医薬品使用割合が増加している。



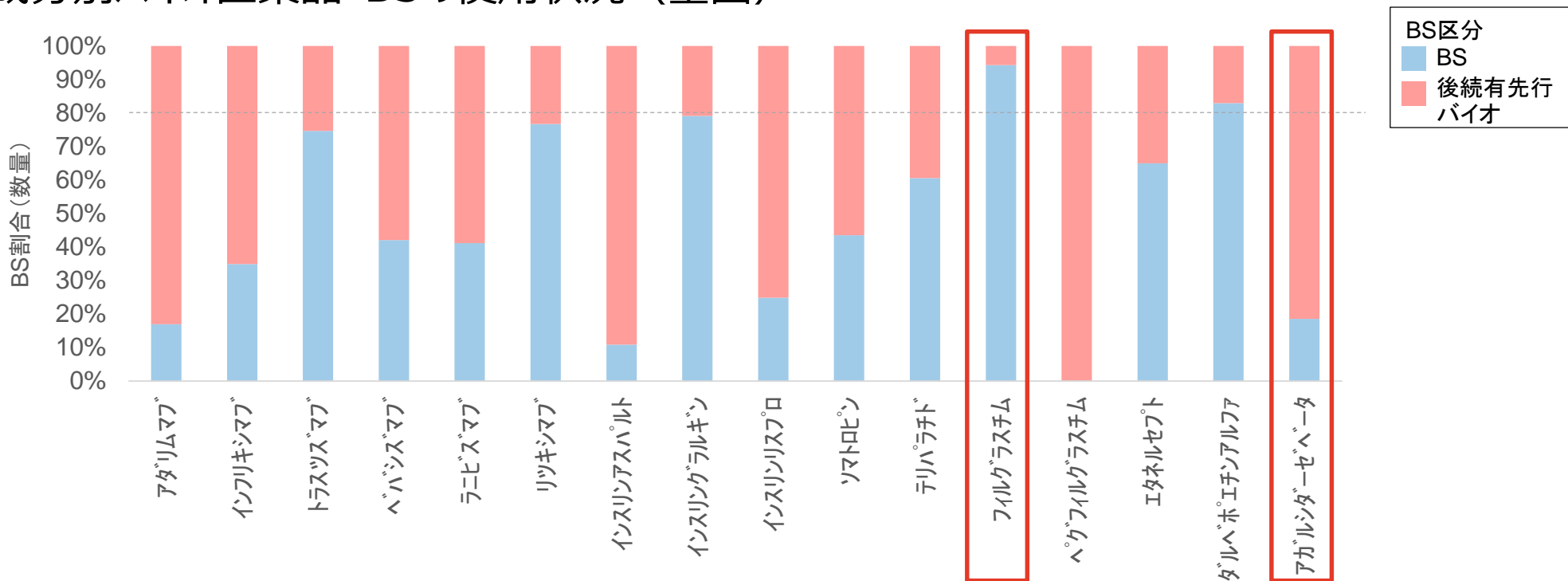
2. 協会けんぽにおけるバイオシミラー（BS）の現状

- 第4期医療費適正化計画において、バイオシミラーの使用促進が新たな目標として設定されています。

2029年度末までに、バイオシミラーに80%以上置き換わった成分数が全体の成分数の60%以上にすることを旨す

協会けんぽでは、80%まで置き換わった成分は、フィルグラスチムとダルベポエチンアルファの2成分で全16成分のうち、12.5%となっている（2023年9月時点）。

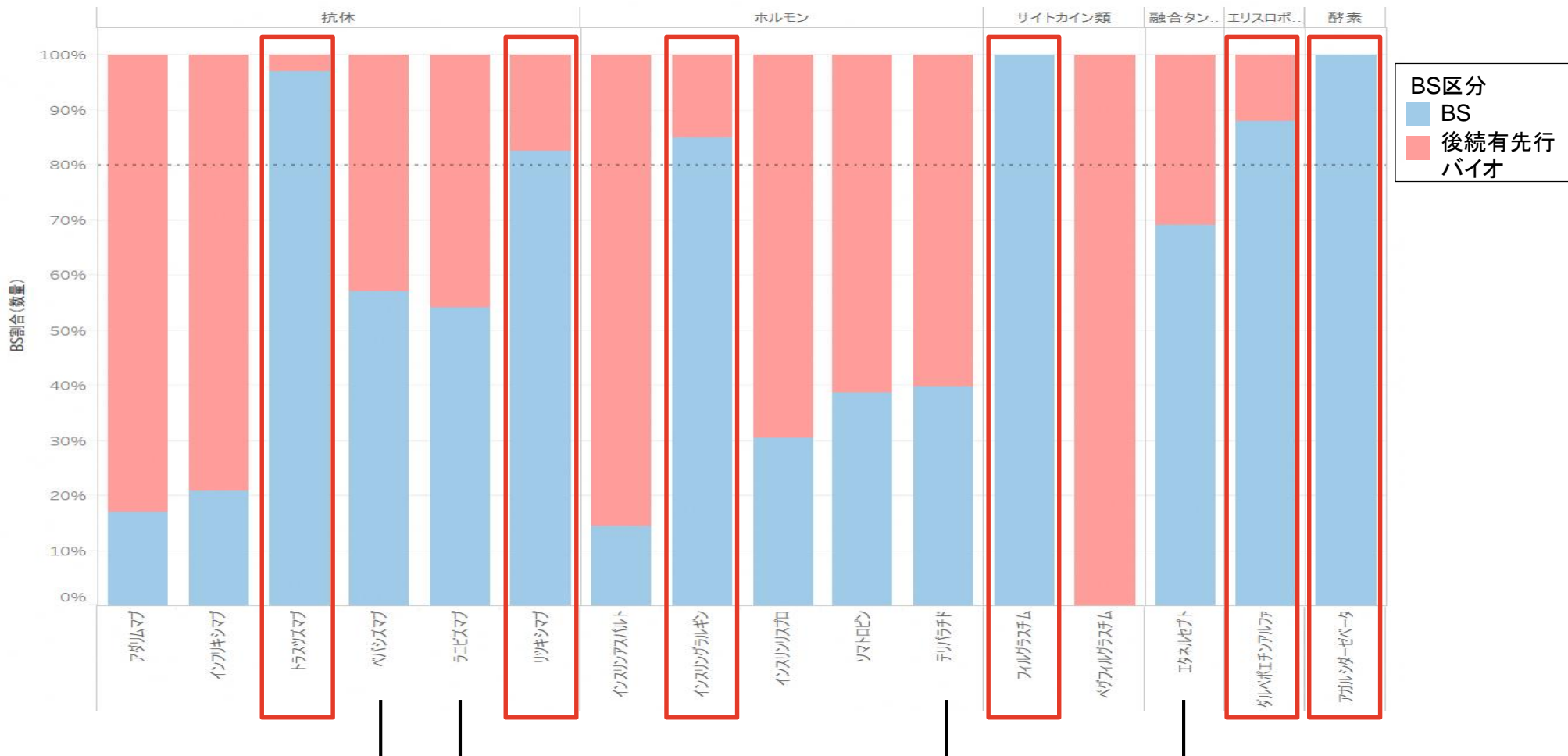
成分別バイオ医薬品・BSの使用状況（全国）



成分別バイオ医薬品・BSの使用状況（山形支部）

協会けんぽ加入者のレセプトデータ（2023年7月～9月）

・厚生労働省の指標にもとづく、山形支部では80%まで置き換わった成分は6成分で、2023年9月時点で薬価収載されている全16成分のうち37.5%となっている。政府目標のためには、残り4成分の達成が必要。



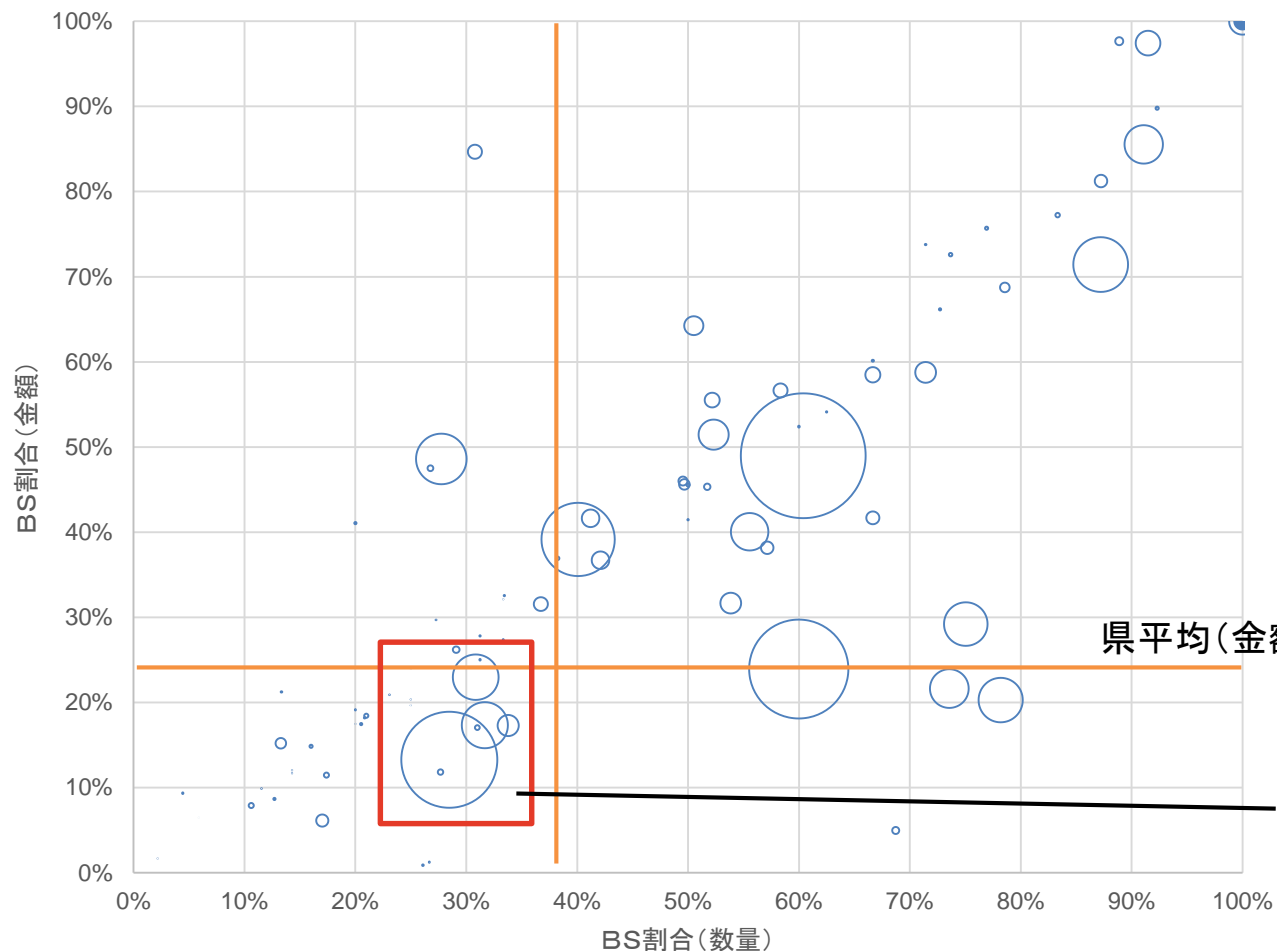
比較的置き換えが進んでいる4成分を中心に切り換えを促す必要ありか。

医療機関別BS割合（数量・金額）（山形支部）

協会けんぽ加入者のレセプトデータ（2023年7月～9月）

- ・県内の医療機関別使用割合は下図のとおり。BS割合が数量金額ともに高い医療機関もみられる。

県平均(数量) 39.0%



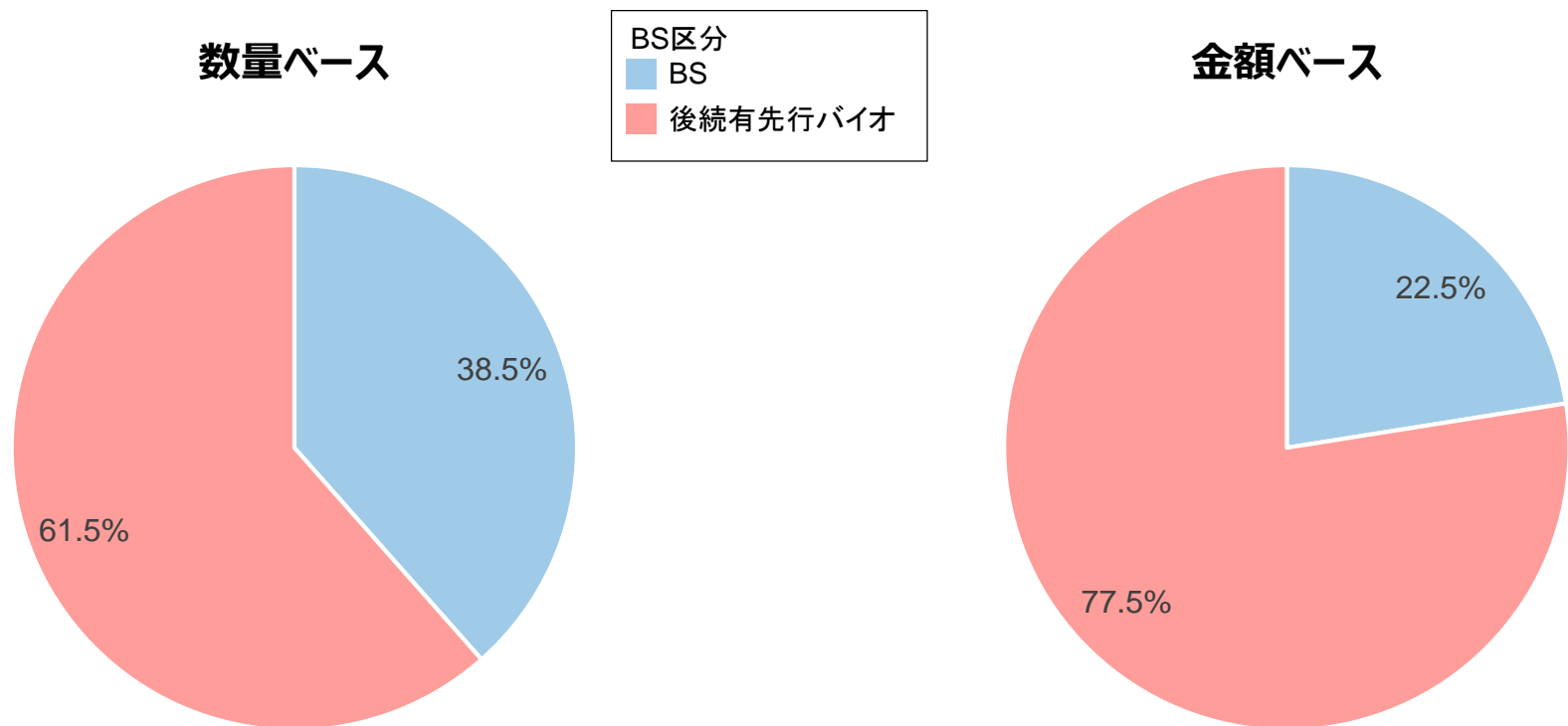
円の大きさ = 薬剤費合計
≡ 県全体への影響が大きい

円が大きい医療機関の使用割合が伸びることで、県全体の伸びも期待される

バイオ医薬品・BSの使用状況（全国）

協会けんぽ加入者のレセプトデータ（2023年7月～9月）

・成分別の違いを考慮しない数量及び金額ベースのBS比率は、各々約39%と約23%となっており、ジェネリック医薬品と同様に、薬価の高い医薬品ほど比較的切替が進んでいない。



入院・院内外別のBS使用状況（金額ベース）

協会けんぽ加入者のレセプトデータ（2023年7月～9月）

・金額ベースでは外来の院内処方の占める割合が大きい。比較的薬価の高いバイオ医薬品は、医療機関内で点滴や注射を行うケースが多いためと考えられる。

